

核医学の現状と未来

－核医学の現場から今後の治療法の進展まで－

日時 2025年

オンライン開催

6月27日 金 13:30 - 16:25

プログラム

- | | |
|-------------|---|
| 13:30-13:35 | 開会あいさつ・活動報告
埼玉大学大学院理工学研究科 教授 松岡 浩司 |
| 13:35-14:25 | 臨床現場における核医学検査の現状
<div style="background-color: #f0f0f0; padding: 5px; margin-top: 5px;">核医学検査では投与した放射性医薬品を専用のカメラで画像化することにより組織や臓器における機能や代謝の情報を得ている。適切な検査実施に必要な放射性医薬品、手順、画像作成などの基礎知識について解説する。</div> <div style="text-align: right; margin-top: 5px;">日本メジフィジックス株式会社 営業本部 営業統括部
鷲見 将可氏</div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">< 休 憩 ></div> |
| 14:35-15:25 | 安全で効果的なα線核医学治療を目指す創薬のポイント
<div style="background-color: #f0f0f0; padding: 5px; margin-top: 5px;">新規α線放出核種を用いた新しい癌治療薬開発の鍵を解説。診断（Diagnostics）と治療（Therapeutics）を融合するセラノスティクス（Theranostics）の概念を基に、安全で効果的な創薬のポイントを理工学と核医学の融合的視点から紹介する。</div> <div style="text-align: right; margin-top: 5px;">東京大学 アイソトープ総合センター 特任教授
熊倉 嘉貴氏</div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">< 休 憩 ></div> |
| 15:35-16:25 | 進行がん治療を指向した低免疫原性ストレプトアビジン変異体と改変ビオチンを用いるプレターゲットイングシステムの開発
<div style="background-color: #f0f0f0; padding: 5px; margin-top: 5px;">再発や転移により体内にひろがった進行がんに対して副作用の少ない治療薬を開発することはがん研究の最大の課題となっている。本講演では、独自の改変ストレプトアビジンと改変ビオチンによる薬物送達システムを利用した癌治療について講演を行う。</div> <div style="text-align: right; margin-top: 5px;">東京大学 アイソトープ総合センター 特任助教
巽 俊文氏</div> |

